

久保田 正和

京都大学大学院医学研究科 助教

ITを用いた双方向性精神的ケアシステムによる退院支援

【目的】双方向性モニターシステムを利用した週1回の定期的な生活指導が糖尿病患者の血糖コントロール、精神的ストレスの緩和に有効であるかを検討した【方法】高度先進医療病院の医師、看護師と糖尿病患者の自宅をITインフラ（テレビ電話）により双方向に結び、週1回、30分程度の生活指導、糖尿病に関する相談を12週間継続した。また、介入前と外来受診時、介入12週間後に血液検査とアンケート（糖尿病問題領域質問表：PAID）を行った。【成績】介入前に比べ、双方向性モニターシステムによる介入12週間後の体重、HbA1cの値に改善が見られた。また生活習慣に関するアンケートから、糖尿病患者自身の食事に対する意識に変化が見られた。医療者側からは、週1回通信することが糖尿病患者の自己管理を見守る意味で大変有効であるという意見があった【結論】医師、看護師が週1回の双方向性ケアシステムを用いた生活指導を実践した結果、糖尿病患者の血糖コントロールが改善し、患者の意識の変化にも効果的であることが示唆された。